

(ウ) 無敵の政治的状態の下に於ては、あらゆる經濟戦争は、實態との衝突によつて、政治戦争としての性質を帯びて来る。そして、無論我々は、國家權力の衝突に對しては、全力的に闘はなければならぬ。その意味からすれば、あらゆる經濟戦争は現在では、固ち政治戦争に變化する。

(ワ) だが我々の闘争は、あらゆる經濟戦争を政治戦争へ導くべきだ、といふ事へ方の取り違ひのために、いつのまにか、遂路へふみ込んで行つて、個々の經濟戦争からは獨立した政治戦争を不斷に計算し進行することを志すた點に在る。

(カ) 經濟戦争と政治戦争との關係は、從來、真然と考へられてゐたやうな緊密なるものではない。無論政治戦争と經濟戦争との間には密接な關係がある。經濟戦争にさへ影響されてゐない大衆が、直に政治戦争に参加するといふやうなことは考へられなかつた。だから、大衆が猛烈な經濟戦争に翻起されてゐるほど、スミラシイ政治戦争を進行する可能性は増えて来るわけだ。だが、それは、個々の經濟戦争をそのまま發展させてすばらしい政治戦争に變化せしめることが出来るといふことは別である。

(コ) 一個の資本家もしくは地主に對する闘争に於ては、各階級、各階級の階級的な分析や、極めて科學的な見識や戰術が必要とされてゐるのだ。況んや、我々が資本家地主の政治勢力を向上に對して、特定の政治的カンパニアを進行する場合には、實に、程度に、階級的な計算が、圖てられなければならない、その計算を實行するに足るだけの組織が、不慮に保たなければならないのである。

(タ) 我々は、個々の經濟戦争の尖鋭に立つて果敢なる闘ひを闘けると同時に當面の最も緊急な問題をとり、不斷に獨立の政治戦争を計算し大衆を動員すると同時に我々自身を政治戦争に動員し優秀なる階級を導き取らねばならぬのである。不慮のさうした訓練なしには、我々は、イザといふ場合には、いつも必ず敗北するやうなことになるであらう。マルクスが言つてゐるやうに敵は極めて優秀なのだ。我々はそれ以上に優秀な階級を一統し、闘ひ取る必要があるのだ。(不斷の政治的組織、大衆的アジ、プロの意識について)は既に述べたから省略する。

二、闘争組織と闘争形態

(イ) 我々の最も代表的な闘争組織——カンパニア組織——は、從來、工場代表者會議、農民組合、労働組合、等である。

(ロ) カンパニアの組織は、恒久的な組織ではない。それは、特定の闘争目標の下に動員された大衆の闘争のための組織である。

(ハ) 我々がこゝで闘争する必要があるのは、我々が一定の政治的闘争を計算した場合に如何なる闘争組織の下に労働者階級大衆を組織すべきかの問題である。

(ニ) たゞ、我々が「帝國主義戦争反對」のカンパニアを計算したとする。すると各支部では黨本部の指令に基づき、各地の状況に照して、一定の具體的方針を定め、先づ第一になされねばならぬことは、労働組合、もしくは、農民組合の中、その方針を保持すべきである。そして、組合の全組織の活動によつて全未組織の組織の下の統一し、資本家階級と其の階級に對して、勢力を

擴大することに努める。その場合、階級に對しては、階級は、階級に對して、階級的に活動すること、労働組合の場合ならば、工場分會が中心になつて工場へビラを打ち込んだり、或は、労働組合の活動を通じて何故か、帝國主義戦争に反対しなければならぬかを、階級にアジ、プロする。そして、彼等に對して、帝國主義戦争に對して、責任を定め、一旦それが成立したら直に「組合」を組織し、責任を定め、その組織を通じて、より廣汎なる大衆に働きかけるやうにする。そして、工場代表者會議が組織されたならば、その工場代表者會議は、その「組合」の代表者として活動するやうにする。

(ホ) 農村——農民組合に對する場合は、字、村の農民組合が組織され、此處の活動開始される。

(ヘ) かくして、個々にそれらが擴大されるに至れば、それは、地方的もしくは全國的労働組織にまで發展されて行く。かくして、ガツリした下部組織の上に築き上げられた労働組織ならたとへそれが、如何なる運動に會はうとも、その組織を根こそぎやられるといふやうなことはない。否、運動がほげしければ、むしろ、下部組織は更に擴大されて行く。

(ト) 我々の最も代表的な闘争形態は、ストライキとデモだ。我々にはまだ、政治的ストライキとデモが全力的に發展された組織はないが、支那階級を鼓舞せしめ、労働者階級の威力を發揮し得るのは、全力的ストライキとデモ以外にはない。

三、戦線統一に就いて

(イ) 我々が戦線統一を要求してゐるのは、我々の大衆を右翼的

階級の下へ統一し、資本家階級と其の階級に對して、勢力を擴大するためである。

(ロ) 戦線統一に對するすべての問題は、この観点から取り扱はるべきである。たとへば合同の問題に關して言へば、合同したために、左翼的方針が到底行はれなくなる、といったやうな場合には、無論、我々は合同すべきではない。だが、合同を行つた場合には、階級が強化され、資本家地主の攻撃に一切の非無階級的的指導に對し、より有効に對ふことが出来るやうな見通しが立つた場合には、我々は進んで合同方針に通過すべきである。

(ハ) 當面、大衆と合同問題が、現實の問題になつてゐるが我々は、此問題を、彼等の場合たとへば、何となれば、大衆の合同申込は、同黨の大衆の意思であり、それ等の大衆は、明かに、より強力に戦はんが爲に、合同を要求してゐるのであるから。

(ニ) 我々は、一旦、合同するのが正しいといふ見通しが立つた場合は、無論、無條件で、合同に同意すべきである。他黨の幹部に、條件を持ち出し、その承認を求むるやうな事は無意味である。我々は、兵、あくまで、左翼的方針をもつたまま合同に同意するのであることを大衆に知らせ、且つそれを合同後にあくまで我々と同時に必ずすべきである。